

2009 知的財産戦略専門調査会 意見書

東京大学先端技術センター 教授

(社)日本知財学会理事

渡部俊也

1. 総合的な科学技術政策の方向性

100年に一度と言われる現下の厳しい経済情勢に鑑み、環境・エネルギー分野と食糧分野、生命科学分野等において、多くの企業が関与し、大規模な事業化を目指せる研究開発テーマに国が重点投資し、エレクトロニクスや機械、化学産業の需要を回復させることが急務である。

このような科学技術への投資は、単なる財政出動ではなく、イノベーションに結実させ、ベンチャー創業を盛んにし、次世代産業の競争力を高めるための戦略的投資とすべきであり、そのためには①グローバルな、②オープンイノベーション、を最大限活用した知的財産戦略は、有効かつ不可欠である。

このような視点を背景に、現在の科学技術に関する知的財産戦略の課題を明らかにして、素早い対策を講じていくことが必要である。

2. 各論

① 科学技術を核とした国際的な知財の創造・管理・活用

国際的に特許が流通する時代になりつつある中で、研究機関の特許は、企業の特許に比べて流通性を特徴としている。日本版バイドール法では、現在国内産業保護の条項は設けていないが、雇用につながる国内製造を前提としたライセンスを、外国での製造を前提としたライセンスより優先する、などの条項は検討が必要ではないか(外国企業へのライセンスを制約する必要はない)。

また最近台頭してきている知財ファンドは、行き場を失った投資資金が今後知財や発明にあつまる可能性を示唆しているようにも思える。産業技術としての重要性からかい離れた知財の取引は、知財流通市場をゆがめ弊害を及ぼす恐れもある。そのようなことがないように、最近の国際的な知財(発明)ファンドや知財流通市場、インターネット上での発明調達の仕組みの実態を把握し、発明者、創作者に魅力的であり、かつユーザーにとっても有益な知財(発明)市場を形成していくことに、我が国がイニシアティブを発揮していく必要がある。

これとともに市場に流通する知財の質を担保する仕組みや、適切な評価が行われることが重要である。この点、流通性の高い研究機関の特許の質を高めるための各知財部門の管理水準の向上は重要である。

その他、本テーマに関係して

■ 研究方法の特許に関する方針の調和(世界的な合意を目指す)

試験研究方法のライセンスやリサーチツールガイドラインの外国への普及活動を行う

べきではないか

■ **グローバルな職務発明制度の調和**

国際的な研究協力やインターネット上での研究協力において、大きく異なる職務発明制度が問題になるのではないか。対策が必要ではないか

■ **発展途上国の生物資源、遺伝資源の保護と途上国への成果還元**の調和

特に自由な研究を束縛する知財南北問題の解消(インドネシア対WHO)が必要なのではないか。

■ **アセアン等発展途上国の知的財産分野におけるキャパシティービルディングに関する国際学術交流促進**を考えるべきではないか

などが議論の候補となり得るのではないか。

②大学、公的研究機関の知財戦略

(基礎的研究成果の知財を基にした研究開発戦略)

長期の研究開発機関がかかる基本的な研究成果は、単にライセンスをしようとしても困難である。オープンな知財戦略によって研究開発のイニシアティブを確保するなど、戦略的な活用が重要であり、このような戦略的取り組みを支援する。

(産学の複雑な知財管理)

複数の大学や企業が参加する国原資の大型共同研究開発プロジェクトにおいては知的財産の管理が複雑になっているため、採択後に効果的な知財管理ができなくなっているケースもある。知財戦略を強化するため、

- ① グラントの選定過程において、知的財産管理契約の方針(知財ポリシー; 主要な合意事項を明記する必要がある)について、参加者の合意が得られているかを確認する
- ② 複雑な事例について、実例に基づくケーススタディー(実例は秘密なのでこれを改変したもの)を作製して、課題や問題点を産学の関係者が共有する。
- ③ 産学で②を利用した研究会(研修会)を実施することで、複雑なケースの合意の進め方を明らかにしていく。

などを行うべき。

また国際産学連携などでの国際共有特許のサブライセンスを自由にする方針があってもよいのではないか。

(大学の知財管理の影響の評価と対応)

大学の知財管理強化は、ナショナルイノベーションシステムの透明性を高め、納税者に対する説明責任を果たせる仕組みとして効果を上げてきたが、連携相手として大企業と中小企業、国内企業と海外企業で異なる効果を生んでいる。またアカデミアの側にもさまざまな影響を及ぼしている。効果をさらに高め、課題を解決できるように実態を把握することが重要。

以上